

令和7年第2回 区づくり推進横浜市会議員会議（青葉区） 議事録	
開催日時	令和7年6月11日（水） 午後2時30分～午後3時50分
場 所	青葉市役所4階会議室及びWeb会議
出席者	<p>【座 長】 横山正人議員</p> <p>【議員：5名】 山下正人議員、伊藤くみこ議員、藤崎浩太郎議員、行田朝仁議員、おさかべさやか議員</p> <p>【説明局員：24名】（青葉区：24名）</p> <p>中島区長、真船副区長、青木福祉保健センター長、 今井福祉保健センター担当部長、綱河土木事務所長、 宇多消防署長、ほか関係職員</p>
次 第	<p>報告</p> <p>令和7年度 青葉区運営方針について （資料1）</p> <p>議事</p> <p>1 「令和7年度 青葉区に係る予算のすがた」について （資料2）</p> <p>2 「令和7年度 個性ある区づくり推進費 執行状況」について （資料3）</p>
発言の 要 旨	<p>資料1を中島区長が、資料2及び資料3を真船副区長が説明</p> <p>行田議員 ありがとうございます。9ページの青葉区の予算は83億円ということで、人件費が入っていませんが、人件費が入ったら幾らになるのか、単純に区民1人当たりに換算すると、人件費を入れたら幾らになるか分かりますか。</p> <p>中島区長 人件費については、全てまとめて市民費の中に入っていますので、ここから青葉区の職員の人件費のみを抽出し、青葉区の職員の人件費を載せることは難しい状況です。</p> <p>行田議員 分かりました。よく外から聞かれるので。ただ、事業費は出ますよね。お役所の事業費には人件費が入っていないですね。これに関しては本当にクエスチョンになるので、今後分かるようにやっていかなければと思っています。</p> <p> 続いて22ページの出張子育て相談ひろばについて。これはおでかけラフールとしてやっていますけれども、この子育て支援拠点の関係で、うちのほうで継続的に質問している内容があります。先日も一般質問でやったのですが、日曜開場をやってほしいと。今、ラフールさんもそうですけれども、大体、土曜日は開けているのだけれども、日曜・月曜は休みです。やはりお父さんとかが育児に参加するとなったら日曜開けてほしいという声があり、例えば磯子区とか一部の区ではもう開いているところがあります。市長の答弁でもお金のかかる話、人の確保も大事だということで、今後広げていきたいという答弁はあったのだけれども、この休みの日の対応というのが1つです。</p>

	<p>それと関連して、休日保育と休日の一時保育について。これも近くでは港北とか都筑ではあったりするのですが、青葉はないですね。休日のサポートという観点で、本当はあれば一番いいのですが、本局のほうでもお金もかけてやってもらわなきゃいけないのですが、どういう状況なのでしょう。</p>
藤本 子育て家庭支援課長	<p>子育て家庭支援課長の藤本です。ご質問ありがとうございます。市全体でも、日曜開始について、父親の育児支援も含めて検討事項としては認識しております。現在、日曜日の支援について少しずつ検討し始めているところですが、実際はまだ開始するところまでは話が至っていないところです。あわせて、父親に関しての支援については検討していこうということで動き始めております。</p>
行田 議員	<p>ありがとうございます。引き続きお願いします。</p> <p>32ページ、5月29日に高齢者安心ネットワーク連絡会をやったということですが、このときの状況を教えてください。</p>
岸田 高齢・障害支援課長	<p>高齢・障害支援課の岸田です。ご質問ありがとうございます。5月29日に開催された高齢者安心ネットワーク連絡会では、そちらにございますような包括、警察、消防等、様々な団体が参加いたしました。6年度の実績の実績ですとか、そういったものを共有しますとともに、今後に向けて一層連携を深めていくという、そういったところでお互いの状況を報告・共有したということでございます。</p>
行田 議員	<p>ありがとうございます。これはとても重要なことだと思います。これも大きなイベントではあるのですが、この連携を今後本当に密にやっていかないと、高齢者の人の見回りであるとか、いろいろな事業をやっていく上で、こうして一番肝となるところを大事にして、ただのイベントで終わらせないでほしいと思っています。</p> <p>続いて34ページの障害者手帳交付時の説明動画の作成。これは本当に大事なことと思っています。つい先日も、岸田さんに、お子さんの関係で、ご病気で、障害者手帳をどうしていいかわからない、何年間か一歩も外に出られずというような市民相談に非常に丁寧に対応いただきました。動画ができることによって状況も変わると思うのですが、問題はこれをどこまで周知できるかということです。困ったときにはこの動画がここにあるということ、積極的にいける人はいいのですが、一歩を踏み出すのが大変な人が世の中にいっぱいいて、そこに寄り添っていくのに区役所の皆さんの力が必要と思っています。広報を含めた周知について教えてください。</p>
岸田 高齢・障害支援課長	<p>ありがとうございます。やはり探して見られる方が分かるようにというのは当然ですが、例えば広報よこはまの区版で、こういった動画ができましたというような、直接とか知合いがそういう困った状態にあ</p>

	<p>るという方にも目につくような形、そのほか様々なイベント等の企画を捉えて周知したいと考えております。</p>
行田議員	<p>一つ要望ですが、医療機関の先生方にお力を頂き、置いていただくなどをぜひ検討してほしいと思います。</p>
横山座長	<p>ほかにございますか。どうぞ。</p>
おさかべ議員	<p>ご説明ありがとうございます。22ページのおでかけラフルですけれども、4月の開催は8人、5月だと2回ですが40人、単純に2で割っても1回20人来ていてすごく増えています。これは何か特徴、工夫されたとかあるのでしょうか。</p>
藤本子ども家庭支援課長	<p>ご質問ありがとうございます。子ども家庭支援課長の藤本です。4月の1回目は、早い時期に設定してしまい、PRが不十分であったということが、人数が少なかった原因です。5月に実施した場所は、今期から開始した、ログハウスでの子育て支援者事業「ほっこりんこ」に合わせてやったということ、もう1か所は若草台地区センターで実施しました。こちらは、子育て支援者事業「ほっこりんこ」の会場として使用しており、「ほっこりんこ」にいらっしゃる方も含めて周知ができました。これらのことから、PRの問題が大きかったと分析しています。</p>
おさかべ議員	<p>ありがとうございます。続いて24ページのパマトコへの一本化ですけれども、現在、青葉区でパマトコの登録者数がどのくらいなのか、後日でもいいので教えてください。といいますのは、一般質問でパマトコの登録は女性が8割、7割で、パパはあまり登録がないということで、やはりパパにも入ってもらいたいというので数が見たいことと、他区と比べて青葉区が低いなんていうことはないとは思いますが、そういうのも把握したいので教えてください。</p>
藤本子ども家庭支援課長	<p>男女比については調べていないのですが、青葉区の現在の登録者数は7,157で、18区の中で2番目に多い数になっています。</p>
おさかべ議員	<p>ありがとうございます。1番目指してぜひ頑張っていってください。</p> <p>続きまして38ページのマラソン大会ですが、以前、親子マラソンを要望しました。今回の予算でもぜひ区で親子マラソンをやってほしいとお願いしたのですが、これは検討いただいているのか、それともやはり難しいのか、難しいのであれば理由等も含めて教えてください。</p>
松本地域振興課長	<p>ご質問ありがとうございます。地域振興課長の松本です。マラソンは区民マラソン運営委員会で実施しておりますので、ご意見は度々伝えて検討していただきましたが、幾つかの理由があってもっと実施は難しいと頂いております。まず第1が、参加者のお子さんの安全確保がなかなか難しいということで、なぜかといいますと、参加者の体調については基本的には自己管理という形になっていて、現在、ふだんから走り慣れていると思われる10キロ70分という制限を入れています。大人の方</p>

	<p>はもちろん、お子さんが参加されると、保護者がついていないとはいえ、何かあった場合、対応が難しいのではないかと懸念しているところです。また、当日1,000名を募集しているのですが、この参加者が一堂に第1駐車場に集まるとかなり混雑しておりまして、お子さんが来たときに人にぶつかるなど、動線の確保が難しいという物理的な問題もございます。</p> <p>また、交通規制ですが、現在は2時間程度を規制するという事で警察から許可を頂いています。大体、スタートして早い方は30分ぐらいで戻ってこられて1時間少しぐらいで帰られて、その後に交通規制を解除することになっています。時間差スタートを少し考えてみようかというお話もあったのですが、スタートした直後、今度は親子に集まっていたいてスタートするときにはもう戻ってきてしまうので、その時間差が難しいと。となると、やはりこの2時間の交通規制の中では難しいかなと言われています。</p> <p>また、スタッフや警備などを増やせば実行可能ではないかという点では、今は費用面でもかなり厳しいところでやっております、今回も実は参加費を値上げして実施するという事で、今のところは金額的な面からも開催は難しいとご返答いただいています。申し訳ございません。</p>
おさかべ議員	<p>調整いただきありがとうございます。子どもなので10キロでなくてもいいかな、3キロとか5キロで、時間差は大人が帰ってきそうなときに帰ってくるといいと思うのですけれども、それも難しいですか。</p>
松本地域振興課長	<p>全員が10キロを走るということは委員の方も想定はしていないのですけれども、出発するのに最初から最後までだと10分ぐらいかかっておりまして、その方々が終わって集まってもらってスタートするのがちょうど戻ってくる方とバッティングするところが難しいのではないかとこのご意見がありました。</p>
おさかべ議員	<p>分かりました。ありがとうございます。実は私、横浜マラソンのファンランファミリーも応募したのですが、落ちました。やはり落ちるとショックで、それがかなってれば、その目標に合わせて子どもと走ったり、イベントにもなるので、できれば今後も引き続き検討いただけると、私も何か工夫ができないか考えますので、よろしくお願いします。</p> <p>最後に、44ページの学生によるボランティアの参加について。主体的な地域課題の解決ということで主体的にと書いてあるのですけれども、ごみ拾いが既に決まっています。最初なので企画を決めてのスタートなのだと思うのですけれども、状況を教えてください。</p>
岩田区政推進課長	<p>区政推進課長の岩田です。できるだけ学生さんが自主的に参加できることを重視し、ごみ拾いという形であればハードルもあまり高くなくご参加いただけるだろうと考えました。どういう方向でやるのか、どうい</p>

	<p>う地域でやっていくのかについては、現在6大学の皆様ともご相談しながら、できるだけ皆さんにご参加いただけるよう、仕掛けをこれから考えていきます。</p>
おさかべ議員	<p>ありがとうございます。主体的なというのは、やはり自分たちで企画されたほうがやる気も出るかと思いますので、よろしくお願いします。</p>
横山座長	<p>ほかにございますか。どうぞ。</p>
伊藤議員	<p>ご説明ありがとうございました。22ページのおでかけラフルなのですけれども、親御さんに対する広報、周知の仕方と、青葉区内での地域をどのように選んでいくのか。子どもが多い地域とか、どういう偏りがあるのか、その辺のことや、回数について、大体月に2回ぐらいなのかなと思うのですが、教えてください。</p>
藤本こども家庭支援課長	<p>こども家庭支援課長の藤本です。ご質問ありがとうございます。1つ目の広報については、ラフルのホームページであるとか、インスタグラム等を使って周知しています。また、赤ちゃん教室など、職員が出向く業務の中でチラシを配布しています。</p> <p>2つ目の地域の選び方ですが、ラフルと協働して子育て支援の場所を中心にして、半径1km、お母さんたちが歩いていける距離をマッピングしています。地図上で空白エリアを見つけてそのエリアにある、自治会館や公園、あるいは地区センターなど活動ができる場所を選んで実施しています。</p>
伊藤議員	<p>実施回数については、予算で決めており、14回です。曜日等につきましては貸していただける会場にもよりますので、曜日が重なることもありますので、なるべく重ならないよう意識しています。</p>
藤本こども家庭支援課長	<p>ありがとうございました。公園でも実施ということなのですが、公園は天候によって左右されると思います。例えばやる予定だったのだけれども雨だった場合はどうするのでしょうか。</p>
伊藤議員	<p>雨の場合はその都度検討し、近くに借りられる会場がある場合にはそちらに変更することもありますし、やむなく中止することもあります。</p> <p>分かりました。ありがとうございます。子育て支援は非常に大切ですので、しっかり取り組んでいただくようお願いいたします。</p>
松本地域振興課長	<p>次に37ページの「あおばちえのわ」について伺います。こちらは新規事業で講座の開催ということですが、大体どのような講座を開催することを想定されているのか。また対象の方々が地域活動を行っている団体ということですが、選考の仕方についてお願いします。</p> <p>ご質問ありがとうございます。地域振興課長の松本です。こちらは今回「あおばちえのわ」と題しまして、地域活動を始めたばかりの人も気軽に学べる場を提供して、より多くの方の活動支援になることを目指しております。具体的には、地域活動団体の皆様が今困っていることです。</p>

	<p>とか知りたいことに即応する講座内容として、団体運営のスキルアップを図っていこうと考えております。</p> <p>現在の想定ですが、予定としては8月には活動仲間の集め方として、いろいろ新たな層へのアプローチ手法や受入れのコツなど、第2回の10月にはD Xを活用した団体運営を想定しています。第3回の12月には、昨年までやっていた青葉みらいづくり大学校等の卒業生が手がけているような地域の活動、事例の紹介をしたり、そういった団体の方が交流できる会を想定しています。</p> <p>団体の選考基準ですが、地域で活動しているところであれば、特にこの方はいいとか駄目とかいうことではなくて、地域で活動している方であれば、その団体に属していればオーケーという形で考えております。</p>
伊藤議員	<p>ありがとうございます。つながりをつくるために大切だと思いますし、講座内容もいいものだと思いますので、よろしくお願いします。</p>
宮崎総務課長	<p>最後に55ページの防災について。地域防災拠点支援事業のところで、拠点对け研修があるのですけれども、どのような内容でしょうか。</p> <p>総務課長の宮崎です。ご質問ありがとうございます。5月28日の総会後に研修を行いました。41の拠点のうち、3つの拠点の活動について、地域防災拠点の委員長や実際に運営に携わっておられる方々に、直接自分たちの活動をご紹介いただき、ほかの拠点の活動の参考にさせていただければという趣旨で実施しました。</p>
伊藤議員	<p>防災に関して、最近ペットに関することがいろいろと問題になっております。ペットの同行避難と同室避難ということも含めて今後進めていくという形になっておりますけれども、なかなか近くの公園を使うということもできなくて、建物の中、学校の中でしかできないということで、青葉区としてどんな方向性で考えていますか。</p>
中角生活衛生課長	<p>生活衛生課の中角です。まず、同行避難は、各拠点で一時避難場所を設置することとしております。今41拠点のうち30拠点で一時飼育場所というのが決まっているのですけれども、残り10か所がまだ決まっていないので、できるだけ早く場所を決められるように支援していきたいと思っております。また、同行避難された方がペットを外で世話できるような支援キットというのは全拠点で既に配付済です。</p> <p>それから、同室避難は、今年度、動物愛護センターを中心にモデル事業を実施する計画です。青葉区については、各拠点にアンケートを実施し、各拠点での今の避難の受入れ状況の確認とともに、同室避難についてもどのように考えていくか、どういった場所に設置すべきかを、アンケートで把握することを進めております。</p>
伊藤議員	<p>ありがとうございます。そうしますと、まだアンケートを取っているような段階で皆さんの状況をお聞きしているところで、具体的にどうす</p>

	<p>るかということはこれからですか。</p> <p>中角生活衛生課長 そうです。今、回答が数件集まっており、同室避難についても必要性は感じているところが幾つかありますけれども、学校ではアレルギーを持っている方もいらっしゃいますので、なかなか難しいという意見が出ています。学校以外の同室避難ができる場所を動物愛護センターを中心に探し始めているところです。</p> <p>伊藤議員 分かりました。先ほど話が合った同行避難の一時飼育場所が決まっているところは、どのような場所ですか。</p> <p>中角生活衛生課長 もともと動物の飼育小屋みたいなのが残っているところを活用するようなところもありますし、屋根があって雨風がしのげるような、人がそこにはとどまらないような、ふさわしいような場所を選んで決めているところもあります。そういったところがなかなか見つからないようなところは、完全な屋外にテントを張って一時飼育場所とすることを考えているところもあります。</p> <p>伊藤議員 分かりました。どうもありがとうございました。</p> <p>横山座長 どうぞ。</p> <p>山下議員 区長にまず伺います。本日ご説明があった7年度の運営方針ですが、私は、青葉区の一歩の課題は夜間人口と昼間人口の差だと思います。圧倒的に夜間人口が多く昼間人口が少ない。要は働く場所がないのです。郵政の跡地の三井の老人ホームも、これ、どうなっているのよという状況で、商店街がさびれていく一方です。いわゆる就労場所を含めどうやって企業誘致をするか、場所をつくっていくか、スペースをつくっていくかという問題が、この区の運営方針の中からは読み取れないのですけれども、その将来的な今後のビジョンといいますか、将来的にそういった顕在化してくる問題に対する手というのは、この方針の中でも何かうたっているのでしょうか。それとも、別途考えていますか。</p> <p>中島区長 おっしゃるように、昼夜間人口の格差というのは、私もずっと先生とお話ししている中で、同じ課題として受け止めています。この方針には、正直言いまして、来年度の具体的な取組としてそういったものは書かれてはおりません。ただ、おっしゃるように、これから区のプランをつくるにあたり、そこは当然ながら私たちはとても大事な部分だと思っております。これから地域別の方針が出たうえで、区のプランをつくる中ではこの問題もしっかり取り上げていきたいと考えています。</p> <p>山下議員 ぜひよろしくお願いします。田園都市線沿線を考えたときに、宮前区役所が移転して、これから鷺沼も開発されます。どんどん向こうの容積が上がり、引っ張られていくわけです。住む人にとっては宮前区であろうが青葉区であろうが関係ないわけで、どんどんこちらから人口が流出して隣の区や市に行くという、我々としてはなかなか厳しい状況になる</p>
--	---

	<p>と思っています。そういう意味では、駅前の容積が150とか、私はあり得ないと思っていますから、そういうのも含めて、ぜひ青葉区の課題として検討していただきたいと思います。</p> <p>それから、先ほどから出てくるパマトコ。これはアプリですけども、子ども向けや、高齢者向けのアプリだとか、各局が縦割りでいろいろなアプリをつくっていて、旭区の若葉台団地でこれから実験すると私は聞いているのだけれども、高齢者も見られる、男性も見られる、子ども世帯も見られるみたいなワンストップのアプリで、例えば子どもだったらパマトコに誘導するとか、福祉的なサービスの誘導をするとか、もともとAonicoでしたっけ、せっかく考えるのだったら区がモデル事業として何か考えられないのか、そういう検討はしていないのですか。</p>
中島区長	<p>昨年度、こども青少年局で立ち上げたパマトコは、子育て世代への様々な情報や手続などのサービス提供を中心に行っています。アプリでのサービスもある程度分野を絞り込んでいかないと、全てを包含しようとするシステムそのものがものすごく複雑化すると、膨大な情報がそこへ入り過ぎて、実際問題、運用が難しくなってくる部分があります。確かにこれ1つあれば全てできるというのはベストだし、理想ではあるのですが、現実的に運用していくには、ある程度そういうテーマごとにつくっていかざるを得ないのかなと、私も感じております。</p>
山下議員	<p>おっしゃることはよく分かるんですよ。ただ、結局、市のホームページもそうなのだけれども、インデックスが貧弱です。どこに入っているかわからない。LINEは私も登録して見ているのだけれども、ごみの分別にしても何にしても、入り口から何か非常に目次がない。だから、そういうのを区として1つつくっておかないと。区の窓口も含めてね。複雑化するというのは、そこから飛べばいい話で、デジタルの話だから、1つのシステムで全部網羅するのではなくて、飛べるようなインデックスというか目次がないことが問題です。旭区がこれから若葉台でやるというから、少しそれも参考に検討してもらいたいと思います。</p>
中島区長	<p>旭区の実践については注視して、うまくいっているものはどうやらうまくいくかというのを勉強したいと思います。区のホームページも、トップのページは形が決まっているのですけれども、その下のところで、今おっしゃられたようにどうやって分かりやすいインデックスをつけていけるか、今後も検討していきたいと思います。</p>
山下議員	<p>最後に38ページのスポーツ協会の補助金について。補助額は毎年50万円でしたっけ、この補助金を団体に出す基準というのは何か決められているのですか。スポーツ協会も区によって出しているところと出していないところがあるのだけれども。</p>
松本地域振興	<p>地域振興課長の松本です。スポーツ協会に対して区が出している補助</p>

	課長	金ということによろしいですか。
	山下議員	はい。
	松本地域振興課長	こちらはスポーツ協会の補助金要綱で定めており、区域のスポーツ振興に寄与するための補助金です。
	山下議員	それは分かっています。基準。出せる団体と出せない団体は、どこに違いがあるのですか。
	横山座長	もう一回質問してください。
	山下議員	もう一回分かりやすく言います。実は交通安全協会からも同じようなことを言われているのです。交通安全協会は、私は今まで知らなかったのだけれども、県の傘下でなくて市の交通安全協会単独です。これは警察絡みのものなのですが、安協に対する活動が非常に絞られてきて、安協は存亡の危機になっているわけで、ここへ補助などが出ないのかと言われている。今、課長が言われたように、安協も公益的な団体です。スポーツ協会も公益性を持ってやっているとするとするのだったら、この団体は出せるけれどもこの団体は出せないという基準は何かという質問です。
	松本地域振興課長	ありがとうございます。交通安全協会は今厳しい状況ということは伺っています。交通安全協会に区から補助金を直接打っているという状況はつかんでおらず、道路局からもそのような状況を伺っていません。今まで交通安全協会に区から直接補助金を出していない理由としては、やはり警察の所属という考え方が大きいと思っています。直接そこに出せるのかは、青葉区だけで考えられるお話ではないのかと。
	中島区長	補足です。おっしゃるように、交通安全協会は区交通安全協会となっておりますが、これは県の交通安全協会に直接ひもづいている団体としてこれまでやってまいりました。また、ご承知のとおり、交通安全協会はこれまで警察署の敷地の一部をお借りして事務所を設置し、そこで免許の関係の手数料といったものを財源として運営されてきたということで、主に各警察の交通関係のものをやりながらやってきたのですが、今回証紙などの手続が変わっていく中で、そこが非常に厳しい状況にあると聞いております。
	山下議員	これは、青葉区単独の問題ではなく、神奈川県内、少なくとも横浜市内全体の問題でもあると思っております。私どもは区ごとに判断を今早々にできる状態ではないと思っております。我々は地域の実情をしっかりと訴えていきたいと考えております。
	山下議員	区長のおっしゃることも十分理解していますけれども、とは言いながらも、現実的に、例えば交通安全教室であるとか、区と連携・協力していろいろやっていただいています。その団体がなくなってくるといろいろ困るところもありますし、区長が長になっている協議会などの団体もあるので、そこをどういう基準でなっているのか、継続的に調

	<p>べてもらいたいです。私も調べているのですが、自治会から補助するとかいろいろなことをされているところもあります。公益的な部分はしっかりサポートしてもらいたいと思います。</p> <p>それと、このスポーツ協会に補助金が50万円出ている中で、スポーツ協会への参入障壁が極めて高いことはどう考えていますか。新しい団体を入れてくれないことは問題ないですか。</p> <p>スポーツ協会は自律した組織ですので、我々としてそこに勝手に手を突っ込むことはできませんけれども、もしも実際に活動の実態があって継続的な活動をしているにもかかわらず、参加をさせていただけないというようなことがあるのであれば、一度それはスポーツ協会にも事情を聴いてみたいと思います。</p>
中島区長	
山下議員	<p>活動実績があってもなかなか入れてもらえない。理由は青葉区の施設が少ないから。後で横山さんの質問があると思うけれども、野球場も未完成です。人口30万人の青葉区と、10万人ぐらいの西区は、スポーツ施設の数と同じで、体育館も1か所である。そうすると、グラウンドも少なく、奪い合いになるから、新規参入してほしくないとなる。グラウンドなどもきちんと整備していかないと、この参入障壁の問題は多分収まらないと思います。</p> <p>この前、座間の体育館に行ったけれども、人口20万人の座間にあんなに立派な体育館がある。青葉区の人はどこでスポーツをやるかという、町田とかになる。これは情けない、正直言うと。だから、そういうスポーツ施設の整備というのは、やはりスピード感を持ってやってもらいたいし、スポーツ協会に対してもちゃんと調べてください。きちんと活動実績のある団体を拒むというのは、補助金が出ている団体に対して、やはり失礼だと思うのです。以上です。</p>
横山座長	ほかに。藤崎先生、どうぞ。
藤崎議員	<p>まず7ページ目の運営方針です。右上の「Ⅲ 目標達成に向けた組織運営」に「コーディネート力を発揮し」とあります。コーディネート力は重要と思う一方で、やはり区役所の職員の皆さんも2、3年で異動されますし、そういうのは勝手に身につくものでもないと思うのです。研修なのか、OJTなのか、いろいろあると思いますけれども、組織運営としてコーディネート力を位置づけられた中で、区長として、主に4階が中心かもしれませんが、職員の皆さんのコーディネート力をどう高めていこうと考えているか、教えてください。</p>
中島区長	<p>ご質問ありがとうございます。おっしゃるように、コーディネート力を高めるのは、正直、非常に難しいと思っております。それはなかなか簡単に伝達できない。やはりその人が経験の中で身につけていく部分が非常に多いものだと思っております。ただ、例えば地域振興課であった</p>

	<p>り、区政推進課であったり、こども家庭支援課であったり、福祉保健課であったり、様々な団体と一緒に仕事をする立場にあると、必然的に経験の中で身につくものも多分にあると思っております。おっしゃるように、異動などのサイクルの中で全部なくなってしまうように、しっかりと課としてそのやり方やコツといったものを共有していく、個人としてはいなくなったり、新しく来られる方がいらっしゃいますが、課としてその方法、方策を共有していくということがまずは一番大事かと思っております。そこは各課に頑張ってもらい進めたいと思います。</p> <p>藤崎議員 ありがとうございます。おっしゃったことが本当の課題だなと思います。青葉区に住んだこともなく、初めて足を踏み入れましたみたいな職員の方がいらっしゃることも当然起こり得るわけです。土地勘なしでそこからまず学んで、地域課題を学んで、いろいろな人とつながりが生まれていくまでに半年では足りないでしょうから、1年2年かけてようやく身につけていったら異動になるみたいなことも多々あると思います。組織でということは非常に重要ですし、また、伝えていくこと自体とか大変だと思いますけれども、これからの時代、財源がない、お金がそう増えない以上、人で頑張るしかない部分が多分にあると思いますので、工夫して行ってほしいと思います。</p> <p>次に21ページの赤ちゃん教室です。144組とか153組とかあります。これは生まれてから1年間通えるはずですがけれども、分母となる出生数、生まれた子供の数ないしは組数に対して、何%ぐらいの方が参加しているのか、先ほど来、男性の育児参加の話がありましたけれども、赤ちゃん教室に来るパパはどのくらいいるか、教えてください。</p> <p>次に、同じ21ページのプレパパ・プレママクラスです。男性の育児参加が増えていると言われている中で、プレパパ・プレママもここ数年増えているのかどうか、教えてください。</p> <p>あわせて、25ページの一番上の育児相談・子育てトークです。不安解消に向けてということで延べ30件、これは30回、30人ないしは30組から相談があったということだと思うのですが、相談される方の男女比が分かれば教えていただきたい。ひとまず以上3点です。</p> <p>藤本こども家庭支援課長 ご質問ありがとうございます。こども家庭支援課長の藤本です。</p> <p>赤ちゃん教室の参加者数ですが、出生は約1,800人、この赤ちゃん教室自体は第一子を対象にしており、1,800人のうちの大体半数ぐらいが第一子と計算しており、そのうちの3割ぐらいが参加と、こちらの計算上としては把握しております。実際にお父さんがどれぐらい来ているかについては、年々増加傾向ではありますが、まだまだ数人という程度です。赤ちゃん教室だけではなく、こども家庭相談などの相談数についても、男性からの相談が増加している傾向を把握しております。</p>
--	---

	<p>プレパパ・プレママの参加ですけれども、これは人数制限をしておりますので、増加しているかはお答えできないのですが、こちらは大体ご夫婦で参加される方が多いので、15組定員ですと、大体15人ほど男性も一緒に来ていらっしゃる状況です。</p>
佐藤 子育て家庭支援課担当課長	<p>学校連携担当の佐藤です。育児相談の件数のお父様からの内訳というのが今手元にないのですけれども、園庭開放はお父さんの来所が増えている傾向がある園もあります。全部の園ではないのですが、美しが丘の保育園などはお父さんの参加が増えているという実態があります。</p>
藤崎 議員	<p>ありがとうございます。今いろいろと相談のところで伺って、私もずっと議会でも言っているのですけれども、男性の相談を聞いてくれる人の中に男性はいるのかというところです。今の育児相談・子育てトークとか、赤ちゃん教室とかもほぼ女性だと思うのですけれども、特に子育て相談のところで、相談を受ける側に男性はいるのか、教えてください。</p>
藤本 子育て家庭支援課長	<p>実質女性が多いですけれども、子育て家庭支援課に男性の保健師職が今回1名配属になり、対応しています。ただ、男性から相談があったときに、必ずその男性職員が受けるということではなく、専門職として女性であつてもきちんと相談を受けています。</p>
佐藤 子育て家庭支援課担当課長	<p>保育園にも男性の保育士がおりますので、状況によっては男性保育士が対応できると思います。それから、育児講座の中でも、パパ講座という形で男性保育士たちを中心にお父様向けの講座などをやっている実績があります。</p>
藤崎 議員	<p>ありがとうございます。この間、豊島区に行ってきました。豊島区は保健師さん20人中2人男性で、2か所センターがあり、男性が1人ずつということです。保健師の男性も採用するようにしていると言っていたのですけれども、やはり絶対数が少ない部分と、豊島区のアンケート調査の中では、男性の相談を受けてくれる男性が少ないと、男性側からも出ているようです。</p> <p>半分を男性にという採用をするのは困難でしょうけれども、ぜひそういった視点でも取り組んでいただきたいと思います。区局連携もありますし、青葉区のように子育て世代の多い地域においては、こ青局とよく連携していただくことを要望しておきます。</p> <p>最後に、今年、区民意識調査が始まっているということで42ページです。区民意識調査は、非常に重要と思っています。よく調べていなくて言うので申し訳ないですけれども、同じ質問項目を並べている部分は、区の変化が見える化すると、皆さんが頑張った成果とか、何年前にはこういう課題があつてこういう施策を打ったおかげで区民の皆様の意識とか不満が減ってきましたよとか、そういった、経年で一目見て分かるグラフみたいなものも、今後展開すると思います。いかがですか。</p>

	岩田区政推進課長	区政推進課の岩田です。ご質問ありがとうございます。おっしゃっていただいたように、経年変化ということで、今回頂いたご意見も参考に、データが活用できるようにまとめたいと思います。
	藤崎議員	区づくり予算やこういう会議も含めて皆さんいろいろな施策を展開されています。我々も応援の気持ちでいろいろと申し上げますし、今まで皆さんが施策展開して結果的に良くなっているものはちゃんと可視化されることがよいと思っていますので、よろしくお願いします。
	横山座長	ありがとうございます。最後に私から幾つか伺います。先ほどインデックスが分かりづらいという話がありました。私も最近の横浜市のホームページや様々な媒体の中で非常に強く感じているところです。例えば、20ページのニコニコピカピカ歯磨き教室。これは本来、乳幼児歯磨き教室ですよね。やはり行政が出す文書というのは、タイトルは誰が見ても分かりやすいものにしないといけないと思います。サブタイトルとしてニコニコピカピカ歯磨き教室であれば分かるのだけれども、いきなりこれが来ると、これは一体何なのだということになりかねない。これはたまたま目に入ったから言うのであって、別にこれにけちつけているわけじゃないのだけれども、私の意見についての感想をどうぞ。
	中島区長	おっしゃるとおり、行政のページはいろいろな方がご覧になりますので、人によって、よく知っている方、初めて見る方、いろいろな方がご覧になるということを前提に、私どもも、分かりやすくというつもりでタイトルをつけたわけですが、ある面から見ると逆に分かりづらいということもあると、今改めて感じました。より広く誰でも分かりやすい、そうした名称にしていくということを今後もしっかりとやっていきたいと思っています。ありがとうございます。
	横山座長	<p>ぜひお願いします。私は最たるものがパマトコとかAonicoと思っています。パマトコは、実際は横浜市子育て支援アプリでしょ。横浜市子育て支援アプリと言えば誰もが分かる。そのサブタイトルとしてパマトコが来るのだったらいいのだけれども、いきなりパマトコが来られちゃうと、一体これは何ですかとなる。Aonicoも、Aonicoって何の略なのだと。造語を使う場合はちゃんと理解がされているということが大前提で、例えば造語でいうとプレパパ・プレママも造語です。これ、英語ではないからね。プレパパ・プレママも、出産前両親教室です。ちゃんと分かるようなタイトルをつけた上でサブタイトルでいくというのだったら分かるのだけれども、ぜひ検討をお願いしたい。</p> <p>次に、DXの関係です。大阪関西万博に行かれた方はいますか。いない。私、行ってきたのですけれども、あれは無理くりDXを導入しており、来訪者に非常に分かりづらい。予約をどうやって取っていいのか分からないし、取ったつもりが実は取れてなかったとか、申し込んだつも</p>

	<p>りが実は申し込まれてなかったとか、そんな話も聞く。ウェブデザインはきれいに作り込まれているのだけれども、ウェブデザインに凝るあまり、内容のコンテンツまでたどり着けない。これは本末転倒していて、利用者にしてみればミャクミャクなんかどうだっていいわけです。予約が入られる、パビリオンがちゃんと見られる、予約が入られてちゃんと1日楽しく過ごすことができる、その目的だけにあれがあればいいのだけれども、いろいろなものをくつつけるものだから本当に分からなくなるのですね。これは本当に今、役所が注意しなければならない点と思うのですが、いかがですか。</p> <p>中島区長 ありがとうございます。我々も、DXはこれからの時代に必要不可欠なものであるという認識の下、いかに便利に使えるかを考えていますけれども、おっしゃるように、本来便利さのために入れているものが、見かけでかえって使いづらくなってしまっているということであれば、我々としてそういうことがないように、常に戒めながらDXを推進していかなければと、今改めて思っているところです。</p> <p>また、Aonicoについても、「青葉区子育て支援アプリAonico」という名称で始めておりますけれども、我々職員がついつい「Aonico」とふだんから気軽に、短くて使いやすい呼び名を使ってしまうことが、逆に先生方やふだんAonicoのことを知らない方に、「いきなり言われても何？」ということになってしまうことは、反省しなければいけないと思いました。</p> <p>Aonicoについては、今回、横浜市が作成したパマトコと機能がほぼ一致しておりますので、9月で閉鎖して、ここにあるいろいろな情報、子育て支援に関する手続などの情報提供はパマトコで対処し、そこには載せ切れない地域内でのイベントですとか、子育ての活動場所については子育て支援拠点ラフルのホームページに載せていくことになっております。今、先生がおっしゃったように、誰にでも分かりやすい名称を心がけるように、これからも努めたいと思います。</p> <p>横山座長 以前、我が党に、日本語を使えと、一切英語は使うなという市議員がいました。その方が聞いたら、本当に初めから最後まで一体これは何だということになると思います。造語を使う場合は本当に気をつけてください。一般の市民は理解できないということを前提に、ぜひやっていただきたいと思います。</p> <p>最後に谷本公園、これはぜひ今年度、ゴールはどこまで行きたいのだという話までしっかり聞かせていただきたいと思います。</p> <p>井波区政推進課担当課長 区政推進課まちづくり担当の井波です。ご質問ありがとうございます。谷本公園ですが、用地買収が残り9筆からまだ先に進んでいない状況です。9筆中8筆が仮登記のついた土地で、現在はその仮登記権利者</p>
--	--

	<p>との交渉も並行して権利の整理といったところを抱えてやっています。用地交渉なので、年度内に何件というのは交渉チームと話をしてもなかなか出てきませんが、できるだけ早い時期にまず1つ仮登記つきの土地の取得を進めたいと考えているところです。</p> <p>ありがとうございました。それでは、他にご発言もないようですので、本件につきましては会議要綱の7で座長は議事録を議長に報告することになっておりますので、前回同様、事務局が作成した議事録を全員に確認の上、提出するということでよろしゅうございますか。</p> <p>〔異議者なし〕</p>
	<p>横山座長</p> <p>ご異議ないと認め、さように決定します。それでは、以上で本日の議題は全て終了し、区づくり推進横浜市議員会議を閉会します。ありがとうございました。</p>